

鴻巣市立赤見台中学校の実践

1 特徴的な活動内容

「子供たちの『居場所をプロデュースしよう』

新型コロナウイルスが5類へと移行したことで、学校はかつての活気を取り戻しつつある。授業や部活動、様々な行事が「コロナ禍」前のように行えることを多くの子供たちは歓迎しているが、一方で、その「勢い」に乗り切れない子供もいる。子供たちが自己有用感を感じられる「場」を多く設定することによって、自分に自信を持ち、ありのままの自分を認められるようにしていきたい。

2 実施に当たっての工夫

(1) 学校と地域が目標を共有

学校運営協議会で議題にすることにより「子供たちの『居場所』をプロデュースしよう」という目標を関係者で共有することができた。また効果的な活動にするため、事前に打合わせを行い、地域の方にも活動のねらいを理解していただいた。

(2) ボランティアの募集・PTAとの連携

幅広い方々に学校応援団に関わっていただくため、コーディネーターが新入生保護者説明会、PTA総会等で活動内容を紹介し、募集案内を周知した。

3 成果・効果

資源回収、体育祭、合唱コンクール等の学校行事や夜間パトロール、草取り・樹木剪定作業、中庭イルミネーション飾り付け等のボランティア活動に積極的にに関わり、PTA役員や保護者等との連絡・調整をしていただいた。それにより、学校（生徒・保護者・教職員）と地域との連携が確かなものとなった。また、「保護者と登校を考える会」では、学校運営協議会委員としての立場だけでなく、地域から支える立場として、悩みを抱える保護者に貴重な助言をいただいた。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

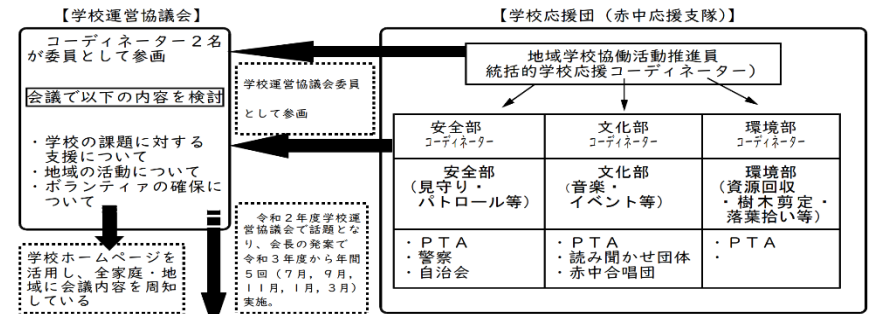
- ・中庭のイルミネーションの飾り付けは寒い中大変だったけど、友達や地域の方たちが喜んでくれていると聞いて、やって良かったと思った。
- ・学校がきれいになったので、とても良かった。

(2) 地域の声

- ・体育祭や合唱コンクール等での子供たちの活気ある様子もいいが、ボランティア等に熱心に取り組む姿も素晴らしいと感じた。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|----------------------------------|-----|------|
| 生徒数 | 444名 | 学級数 | 14学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 3名 (PTA会長1名、民生委員1名、学校応援団顧問1名) | | |



【保護者と登校を考える会】(運営協議会委員6名・学校関係者3名(校長、教頭、さわやか相談員)＋参加を希望した保護者)

【現状】登校できない子供をもつ家庭が、少しでも悩みを打ち明けられるように、また、保護者が力まずに子どもと接することができるように「登校を考える保護者の会」として働きかけを行っている。

【手立て】学校復帰・学級復帰だけが目標でなく、自立した生活を送ることができるように支援をしながら、社会の中で生活できるように力をつけてさせていく。

- ①生徒の意識改革・・・自立した生活を意識させる。(学習端末・友達等)
- ②学校の組織改革・・・不登校に陥らせない対応、小学校との連携、登校しやすい環境の整備。(さわやか相談・学習室・電機室の活用)
- ③地域の支援体制・・・保護者の悩み相談、学習支援、生活支援、環境整備支援。



〔中庭に飾り付けたイルミネーション〕



〔校内の落葉拾い〕

上尾市立東小学校の実践

1 特徴的な活動内容

(1) 緑のカーテンづくり

長年にわたり、ゴーヤ、ヘチマ、ひょうたんづくりのため、屋上から幅100mにわたってネットを設置し、緑のカーテンづくりを行っている。ネット張りだけでなく、雑草取り、土の入れ替え、夏季休業中の水やり等も学校応援団がサポートしている。

(2) 読み聞かせ活動

定期的に月曜日の業前活動において、読み聞かせを行っている。発達段階に応じた本の選定を行い、読んだ本を記録に残して、読む本が重ならないように配慮するなど、児童に寄り添った活動を行っている。

2 実施に当たっての工夫

・学校と地域が協力しての実施

学校応援団運営委員会を年2回実施し、自治会長にも参加していただいている。地域の方に、学校だよりやHP等で活動内容を発信している。コーディネーターが中心となり、PTAや地域の方々と連絡を取り合うことで、活動が活性化している。

3 成果・効果

- ・児童の学校生活が、より豊かになっている。
- ・学校応援団の活動により、児童が季節感を感じたり、大人との関わり方を学んだりするきっかけとなっている。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

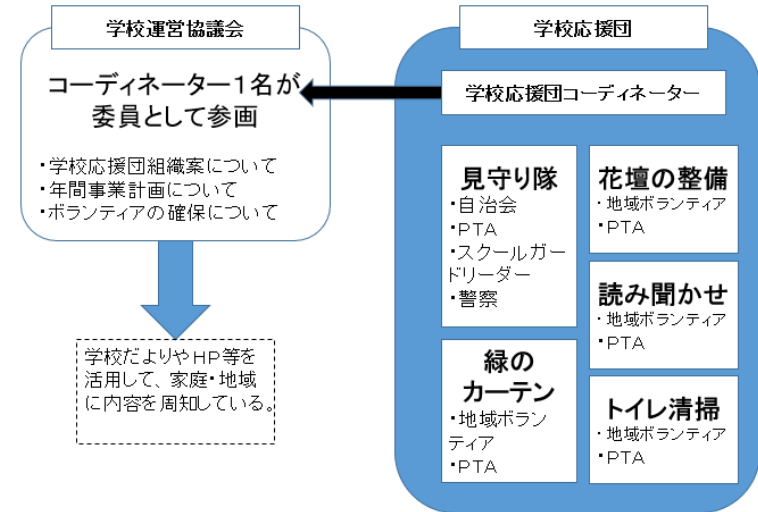
- ・お世話になっている方々へ、感謝の気持ちをもてるようになった。

(2) 地域の声

- ・活動中に子供たちから「ありがとうございます」と元気な声をもらうことがやりがいになった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-------------|-----|------|
| 児童数 | 782名 | 学級数 | 27学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (元区長) | | |



〔緑のカーテンづくり〕



〔読み聞かせ〕

戸田市立戸田南小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- 運動会や音楽会などの大きな行事には計画段階から参画してもらい、円滑な会の進行に役買ってもらっている。
- 今年度より、入学当初の1年生の登校後や休み時間の見守りや給食準備、清掃などの生活支援を地域の方にお願いしている。
- 校内に地域の情報を発信する掲示板を新設。持続可能性を高めるために、地域の方に掲示もお願いしている。

2 実施に当たっての工夫

- (1) 元来PTA活動が盛んで、学校に協力的な風土があった。それを生かすために、学校応援コーディネーターが学校と学校応援団との間を取り持ち、上手に調整してくれている。
- (2) 学校運営協議会で熟議を重ねることにより、学校運営協議会委員の主体性が高まった。新しいことを行うときは、迷わず学校運営協議会が主体となって発信してくれている。

3 成果・効果

- 学校応援団のサポートにより、教育活動の充実はもとより、児童の安全確保や教職員の負担軽減、地域の声を生かした教育活動の実現につながっている。今後、社会に開かれた教育課程の実現に向け、更なる充実を目指していく。

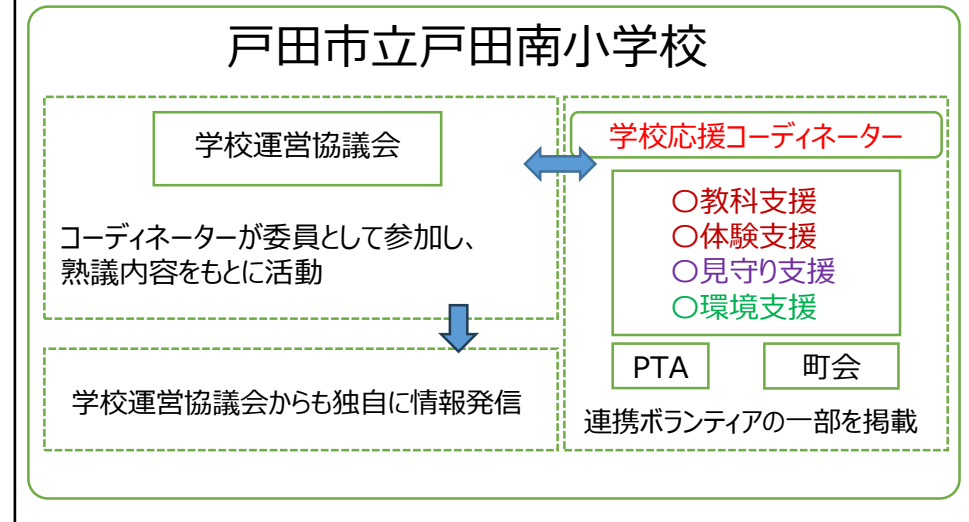
4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・「手伝ってもらったおかげで記録が伸びてうれしかった。」(新体カテストの計測の手伝い)
 - ・「教えてもらったおかげで、いい作品を作れました。」(ミシンボランティア)
- (2) 地域の声
 - ・子供たちの活動の様子を見たり、声を聴いたりすることで元気をもらえる。
 - ・学校の教育活動を知ることにより、関心が深まり協力しようという思いが強くなった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|----------------|-----|------|
| 児童数 | 769名 | 学級数 | 27学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 3名 (元PTA役員) | | |

戸田市立戸田南小学校



〔地域掲示板〕



〔1年生生活支援〕



〔新体カテストの計測〕

和光市立第三中学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 仕事塾「現職の社会人から仕事について学ぼう」
 - ・仕事に関する事前の調べ学習から、10名の現職の方へ仕事内容や様々な疑問や質問をしながら、仕事についてより深く学ぶ。
- (2) 学校環境整備
 - ・本校の広い敷地の整備（除草、木の剪定、落ち葉掃きなど）を保護者・地域や地区社協の方々に定期的に実施してもらう。

2 実施計画

- (1) 仕事塾 ⇒ 「キャリア教育の推進」について学校運営協議会にて熟議し、生徒に職業について身近に感じられる体験型（パネルディスカッション型）の職場体験学習を検討・計画をする

【現職の職人10名】

職業：公務員、スポーツインストラクター、助産師、幼稚園教諭、落語家、理研研究員、理学療法士、IT企業、出版関係、データサイエンティスト

【主な実施内容】中学校2年生対象

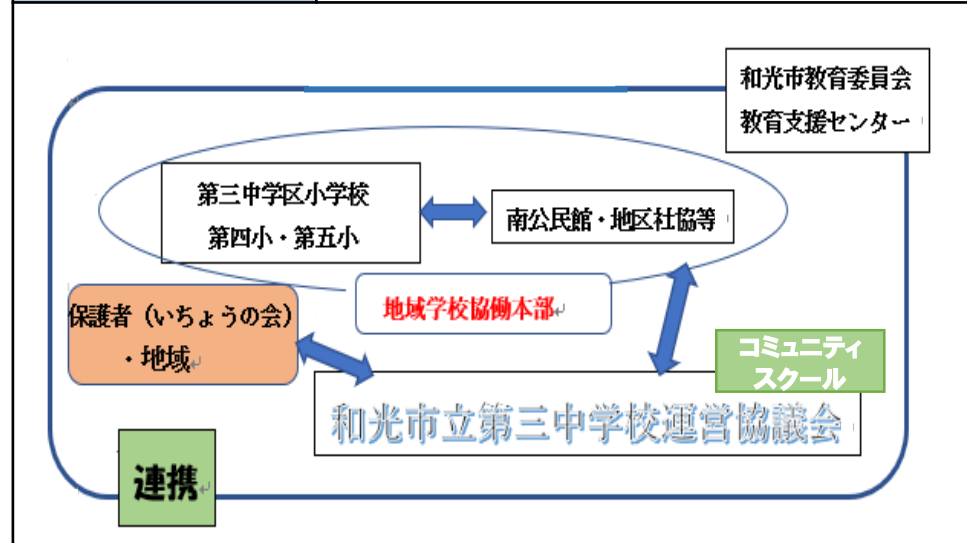
- (1) 各教室（2年生と3年生＊3年生修学旅行中）を10名の活動ブースとして割り当て、生徒が希望したい職業に、順番に訪問し、講義等を受ける。
- (2) 学校環境整備 ⇒ 保護者、地区社協、民生委員が中心となり月1回、校内の除草等の整備を行う。

3 成果

- (1) 生徒の成果
 - ・職人と（中には初めて聞く業種もあった）直接会話することで自分の将来の夢を考えるきっかけになった。
 - ・初対面の人と話すのはドキドキしたが、楽しいと感じられた。
- (2) 地域の声
 - ・生徒は緊張しながらも一生懸命に話をする場面や話を聞く場面を見て、仕事をする上でパワーをもらった。

学校基本情報

| | | | |
|----------------|---|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 508名 | 学級数 | 15学級 |
| コーディネーター数（担い手） | 6名 （保護者の会代表1名、民生委員1名、公民館館長1名、元学区内小学校教諭1名、地区社協2名） | | |



仕事塾の様子



環境整備の様子

新座立第四小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- ・「チロルの森」運営
地域の方や専門家の芸術作品を定期的に展示
- ・「クリンネス」活動
除草やエアコンのフィルター清掃を実施

2 実施に当たっての工夫・

- ・コーディネーターの方との連絡・調整を実施した。
- ・除草では、夏の暑いときには、お茶を準備し、活動時間が長くなり過ぎないように心掛けた。また無理のない範囲での活動をお願いした。

3 成果・効果

- ・「チロルの森」は児童の感性を磨く貴重な場所となっている。
- ・児童の教育環境を整えられるとともに、教職員の負担軽減につながっている。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

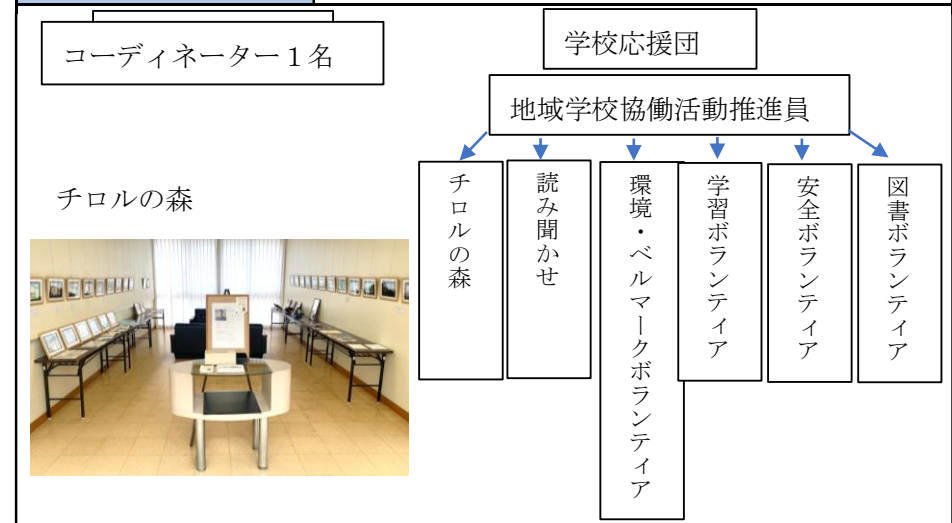
- ・チロルの森はまるで学校にある美術館ですね。すごいです。
- ・地域の方が学校をきれいにしてくださって感謝しています。

(2) 地域の声

地域の方が四小のチロルの森を訪れたときに、ちょうど玄関にいた子どもが「こんにちは。どこに行きたいのですか」と声をかけ、案内しながらその時展示されている作品について説明をした。チロルの森に着いて、その方がお礼をいうと笑顔で「どういたしまして」と教室に帰っていったとのこと。その方は非常に感激され、子どもと地域の方をチロルの森が温かくつないでくれたと感じた。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-----------------------------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 570名 | 学級数 | 22学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (学校運営協議会委員・チロルの森及び読み聞かせの担当) | | |



〔読み聞かせ〕



〔環境・ベルマークボランティア〕

桶川市立桶川東小学校の実践

1 特徴的な活動内容

図書ボランティアとPTA図書部が連携して「アニメーション」「パネルシアター」「読み聞かせ」「図書館や学級・学年図書の整備」を行っている。

2 実施に当たっての工夫

(1) 図書ボランティアとの連携

- ・4月当初、学校図書館教育補助員と図書ボランティア、PTA図書部が一年間の活動内容や「読み聞かせ」の効果的な進め方について打ち合わせをしている。

(2) 図書ボランティアの募集

- ・現在活動を行っている図書ボランティアの方々が、地域で声をかけあって、新規の図書ボランティアを募っている。PTA図書部とも連携して、活動する人員を確保している。

3 成果・効果

- ・図書ボランティアとPTA図書部の連携した活動により、読書環境が整った。
- ・児童の読書意欲を喚起するとともに、読書週間には読書量を増やすきっかけができた。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

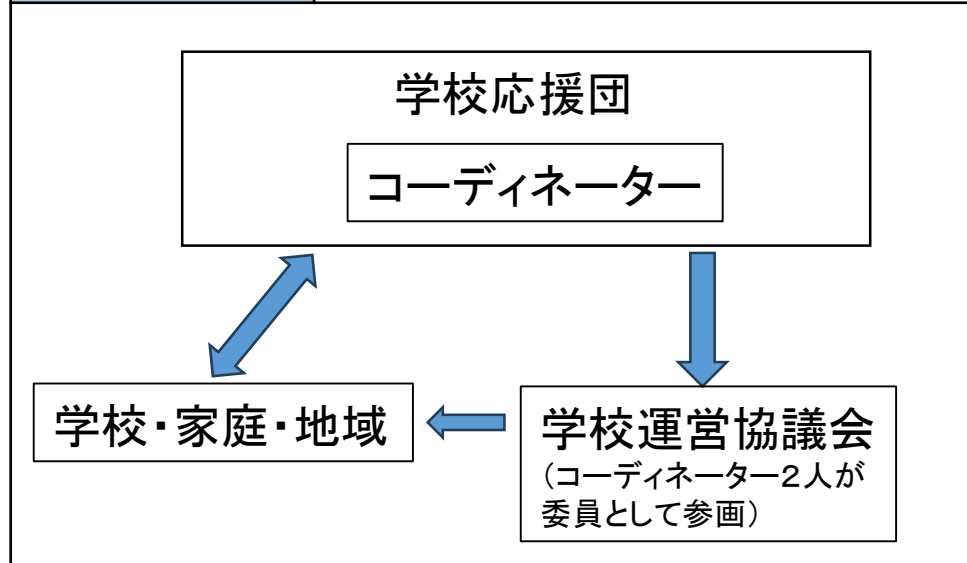
- ・楽しい。読んでもらった本を自分でも読んでみたくなった。
- ・本を読んでもらったことを家の人と話をしている。

(2) 地域の声

- ・児童の反応をみることができ、元気をもらう。
- ・子供が好きなので、ずっと続けていきたい。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--------------------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 780名 | 学級数 | 27学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 2名 （PTA会長、PTA学校応援団担当） | | |



〔1年生対象のアニメーション〕



〔学級・学年図書の点検〕

北本市立中丸東小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 登下校地域見守り隊の活動
 県委嘱のスクールガード・リーダーを中心に、地域自治会の方、ボランティアの方など、児童の登下校を毎日見守っていただいている。併せて、教職員の登下校指導を月に1回実施している。学校応援団と協力し、地区を絞って行うことで、効果的な安全指導ができる環境が整った。
- (2) 環境整備、除草、落ち葉掃き等による美化活動(環境整備ボランティア)
 花の植え替え、樹木の剪定、除草や落ち葉掃きなど、校地内外の美化活動を毎週火曜日に活動していただいている。毎週末にくださるボランティアの方もおり、きれいな環境に整備され、児童は気持ちよく学習活動を行うことができている。

2 実施に当たっての工夫

- (1) 本校の応援団は、個人での参加も多く、登下校時刻の変更など急な予定変更等の際の連絡体制に課題があった。そこで、学校連絡メールに学校応援団グループを作り、個人の方にもメール登録を依頼した。学校側と応援団員各位との連絡がスムーズに行えるようになり、再連絡等の手間が減少した。
- (2) 環境整備ボランティアは、夏は暑い中での作業が多くなるため、集合時刻を早めたり、天候を見たりしながら活動予定を変更するなど、参加してくださる方の健康・安全面に配慮しながら活動をしている。

3 成果・効果

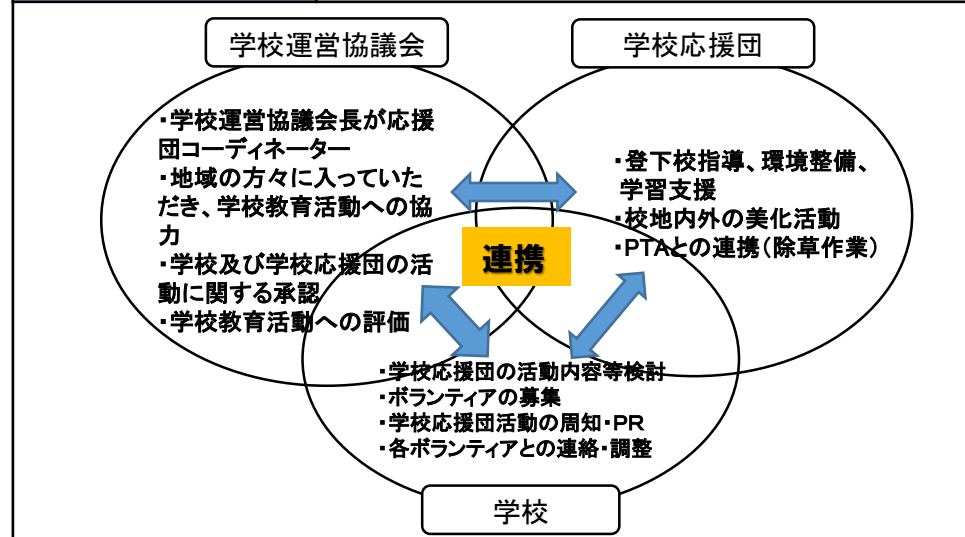
- 成果 環境整備の面では、教職員の作業の大幅削減につながっており、働き方改革の視点からも大きな成果を挙げている。
- ◎効果 児童が学校応援団の活動を日常的に目にすることで、学校の環境整備の大変さや、学校が地域の多くの方に支えられていることを実感できるようになり、愛校心や感謝の念の醸成につながっている。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・焼いも会の時に美味しく焼いてもらい、応援団の方と話しながら食べることができて、楽しかった。
- (2) 地域の声
 - ・作業時に子供たちと一緒に話ができるのが楽しい。学校の様子も分かり、子供たちの成長も見ることができるので、やりがいがある。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-------------------|-----|--------------------|
| 児童（生徒）数 | 180名 | 学級数 | 8学級 (特別支援学級を含む) |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (学校運営協議会委員) | | |



〔応援団による焼いも会の準備〕



〔キャリアチャレンジの中学生と一緒にペンキ塗り〕

伊奈町立南小学校の実践

1 特徴的な活動内容

○「芝生の整備」

2017年に整備された校庭の芝生を、地域の方々に整備していただいている。芝生の上に生えた雑草を抜く作業や伸びた芝生の刈込、運動会前に校庭のトラックにかからないように刈る作業がある。

2 実施に当たっての工夫

(1) 教育委員会との連携

児童が活動していくと、芝生が剥げていく場合もある。そういった場合、町教育委員会と連携を図り、業者に連絡し芝生の養生を行う仕組みになっている。また、夏休み等芝生のエアレーションを実施している。

(2) 夕方からの実施、飲み物の提供

学校応援団の皆様には、天候を見ながら、芝生の整備を実施していただいている。暑い夏の日には、少しでも涼しい夕方から作業を行っている。町教育委員会に予算をつけていただいているので、作業していただいている地域の方々に冷たい飲み物をお出ししている。

3 成果・効果

- ・校庭に芝生があると、夏の暑い日は、芝生上の気温が数℃下がるので、地面からの照り返しがなくなるので、涼しさを感じることがある。
- ・校庭の芝生の管理を地域の方々に行っていただいているので、学校の負担感がない。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

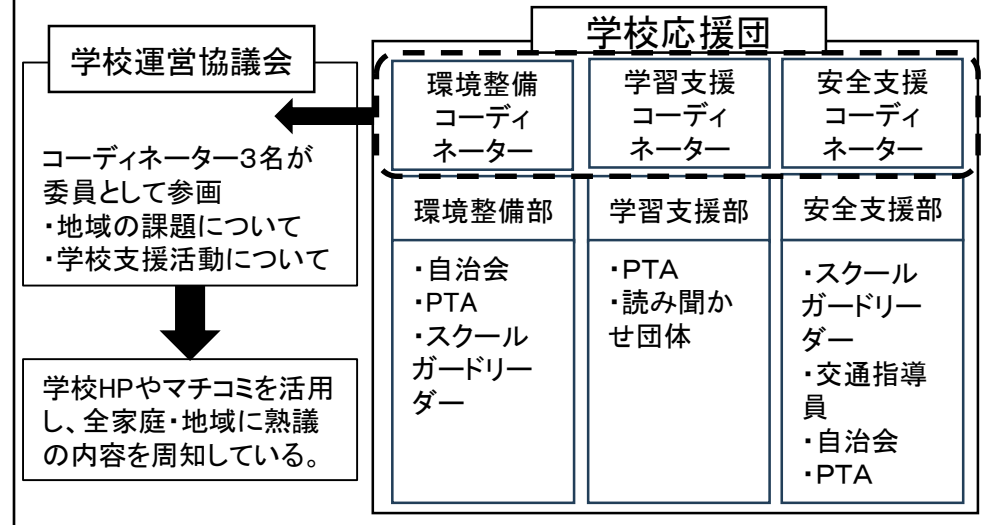
- ・芝生の上で寝転ぶのが気持ちよい。
- ・芝生の上だと転んでも大きな怪我にならないのでよい。

(2) 地域の声

- ・子供たちの芝生の上で活動している姿を見ると、やりがいを感じる。
- ・作業が天候に左右されるので、計画的に整備するのが難しい。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---------------------------------------|-----|------|
| 児童数 | 517名 | 学級数 | 21学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 3名 (PTA会長1名、スクールガード・リーダー1名、地域住民1名) | | |



〔運動会前・校庭トラック芝生整備〕



〔夏休み前・芝生の刈込〕

飯能市立飯能第一小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 登下校の見守り
毎日、登下校時に交差点や危険箇所では交通指導や見守りを行っている。
- (2) ボランティア活動
 - ① 読み聞かせボランティア
月に5～8回、朝読書の10分間、各教室にて全学年対象。
 - ② 園芸ボランティア
校庭や裏庭の花壇等の環境整備を計画し、年間10回ほど作業を実施。全校除草や委員会活動での児童との共同作業。

2 実施に当たっての工夫

- (1) 学校と応援団との情報共有
登下校の見守りボランティアとの連絡会議を夏休みに実施。コロナ禍は実施できなかったが、4年ぶりに開催したことで、双方の情報が共有できただけでなく、地域と学校とが同じ方向性をもって児童を育てていくという確認ができたことが大きな収穫となった。
- (2) 感謝の会の開催
日頃お世話になっているボランティアのみなさんへの感謝の気持ちを児童が直接伝えられる場を設定した。
- (3) 朝会にて、見守りボランティアからのメッセージを児童に伝えた。

3 成果・効果

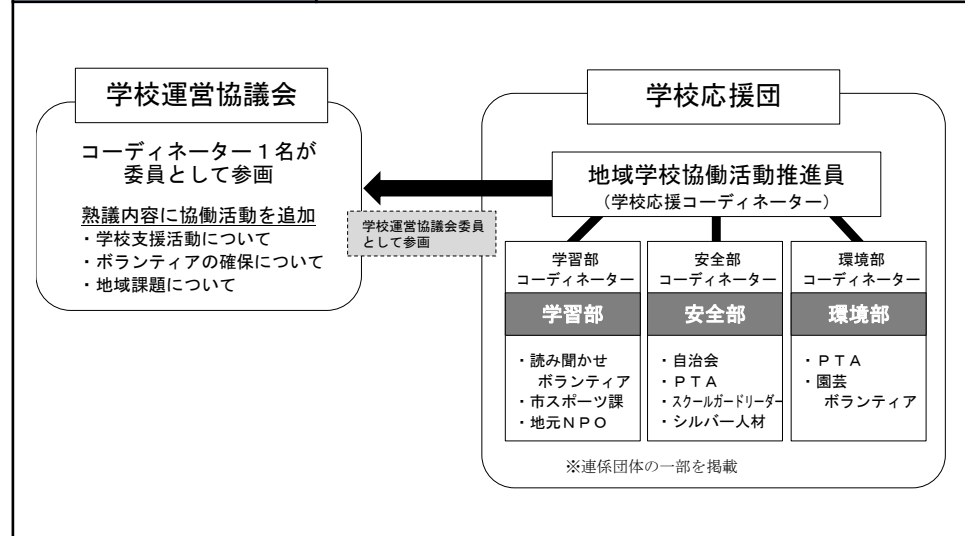
- ・広い本校学区の登下校の安全確保
- ・地域への挨拶の向上
- ・読書への興味・関心の向上、読書活動の啓発
- ・学校の美化

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・たくさんのボランティアの方々が支えてくれていることを知りました。ありがとうございます。
- (2) 地域の声
 - ・子どもたちが健やかに育ってくれるよう協力したい。
 - ・「ありがとう」と言われると、とてもやりがいを感じる。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 610名 | 学級数 | 24学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (PTA会長) | | |



〔登下校の見守り〕



〔読み聞かせ〕

東松山市立高坂学校の実践

1 特徴的な活動内容

地域の人材を効果的に活用するため、学校で必要な人材を整理しコーディネーターを積極活用し、教育活動のニーズに応じた人材活用を図った。

2 実施に当たっての工夫

(1) 人材発掘のための学校運営協議会の積極活用

授業や諸活動におけるこれまでの地域人材活用は、「地域に〇〇ができる方がいる」ことを踏まえ、それを教育課程に位置付ける手法を取っていた。学校のニーズに合う地域人材の発掘を効果的に行うため、学校運営協議会で議題とし、委員からの情報提供や地域の活動センターとの連携により、人材発掘に努めた。

(2) 保護者・地域それぞれのコーディネーターの積極活用

より効果的に人材発掘や日程等の調整を行うため、保護者1名、学校運営協議会委員（地域活動センター所長）1名をコーディネーターに位置付けた。保護者のコーディネーターには、保護者のネットワークを活用し、人選や調整を依頼し、活動センター所長には、学校で必要とする人材を伝え、地域人材の紹介をしていただいた。

3 成果・効果

従来の地域人材活用に加え、授業の実技補助や、クラブ活動での講師としての招聘など、学校のニーズに応じた地域人材活用が行えるようになった。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

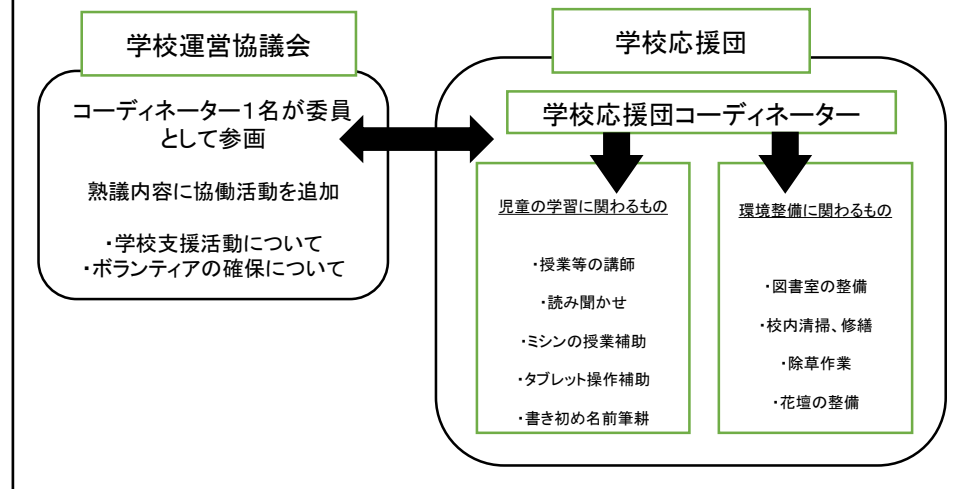
- ・ミシンの指導に地域の方が来てくれて、いろいろなことを聞きながら作業ができた。
- ・お年寄りの方から囲碁のやり方を詳しく教えていただき、囲碁に興味をもてた。

(2) 地域の声

- ・自分の特技を生かして学校の活動に貢献できてよかった。
- ・子供たちと関わることで、自分自身も元気がもえた。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|----------------------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 805名 | 学級数 | 31学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 2名 （保護者1名、地域活動センター所長1名） | | |



〔ミシンボランティア〕



〔総合的な学習の時間〕

狭山市立堀兼中学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 配慮の必要な生徒の居場所づくり（不登校生徒の学習支援）
 - ・今まで、学習支援ボランティアには通常の授業の支援(小テストの採点業務補助)を依頼してきたが、本年度は不登校の生徒や教室に居場所が見つからないなど、配慮の必要な生徒向けに個別の学習支援を行っている。配慮を要する生徒と調整し、特定の曜日に指定された学習室で個別学習を支援する。
- (2) 生徒とともに行う学校環境整備（刈り込み作業、側溝清掃）
 - ・年間指導計画に位置づけた年間2回の勤労奉仕の体験学習（環境整備）において、生徒が活動するための事前準備や当日の作業補助を行っている。

2 実施に当たっての工夫

- (1) 配慮の必要な生徒を組織的に支援
 - ・教育相談部会を中心に相談室。学習ボランティア(本市の団体：SSVC)と連携し、生徒個々に応じた対応を検討し支援
 - ・場所、日時、支援担当者(学習ボランティア)を確保し計画的に実施
- (2) 学校環境整備をPTA・地域の人々と協力し取り組む
 - ・PTA運営委員会で取組内容・役割を確認
 - ・学校だより、PTAだより等で保護者・地域へ協力依頼
 - ・教職員とPTA役員が連携し実施
- (3) 学校支援ボランティアや学校教育支援者へ感謝の集い開き、感謝を伝えると共にそのつながりを深める

3 成果・効果

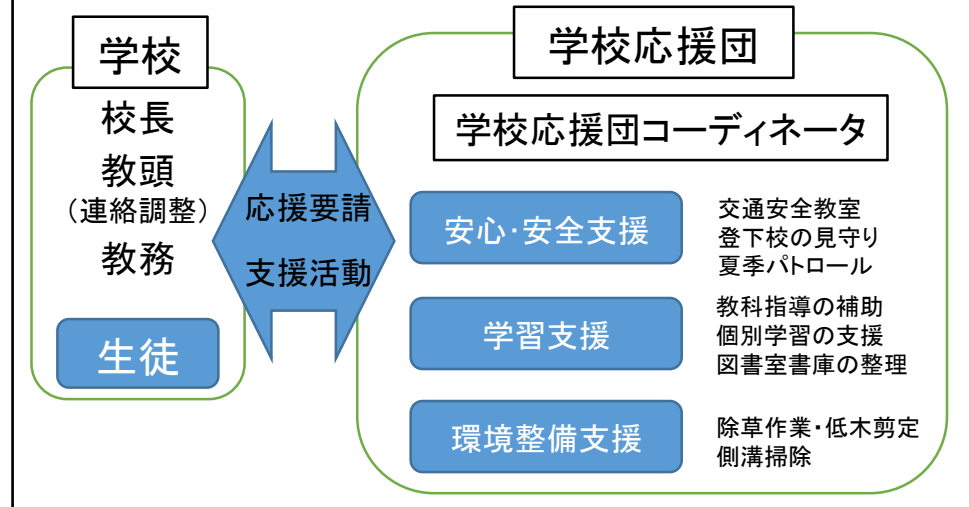
- (1) 配慮の必要な生徒(不登校生徒)へ学習の機会や登校・学習するきっかけを作ることができた。
- (2) 環境整備の中でも大掛かりな刈り込み作業や側溝掃除に生徒と共に保護者、地域の方々の尽力を借りて環境整備が図れた。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・場所とボランティアの方の支援によって取り組み(登校し)やすくなった。
 - ・刈り込み作業等PTAや地域の方の応援で助けられ、きれいになった。
- (2) 地域の声
 - ・学習支援に取り組むことで、不登校生徒が少しずつ登校するきっかけとなって良かった。
 - ・学校環境整備の力になれたこと、来校する機会が持てたことで学校(生徒)の様子を知ることのできる機会となった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--------------------|-----|------|
| 生徒数 | 373名 | 学級数 | 13学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (学習支援ボランティア) | | |



〔感謝の集い〕



〔側溝清掃〕

富士見市立本郷中学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

本校の学校応援団の活動は、地域の方が中心となり学習支援、環境支援等を行っている。環境支援では環境整備の一環として、年間を通して毎月1日朝、登校時にアルミ缶回収を行っており、生徒と学校応援団の方との触れ合いの中で、生徒の豊かな心の育成につながっている。また、校内環境整備の一つとして、季節に合った花を生徒たちが毎日通る通路に生ける活動もあり、学校応援団の方が気軽に来校し、生徒たちとコミュニケーションをとりながら活動することができる環境作りに努めている。

2 特徴的な活動内容

(1) 体験的な学習の充実

学習支援では、地域の人脈を活用し体験活動や進路キャリア教育を行い、地域との関わりを増やしている。講師選定や進行などを学校応援団が行うため、教職員の負担軽減につながっている。

(2) 環境面での支援

校地内外の環境整備や資源回収等、学校応援団が中心となり行っている。教職員と生徒とともに協働することで、地域とのつながりが強まり、地域の行事やボランティアに参加する生徒が増加した。

3 成果と地域の声

(1) 成果

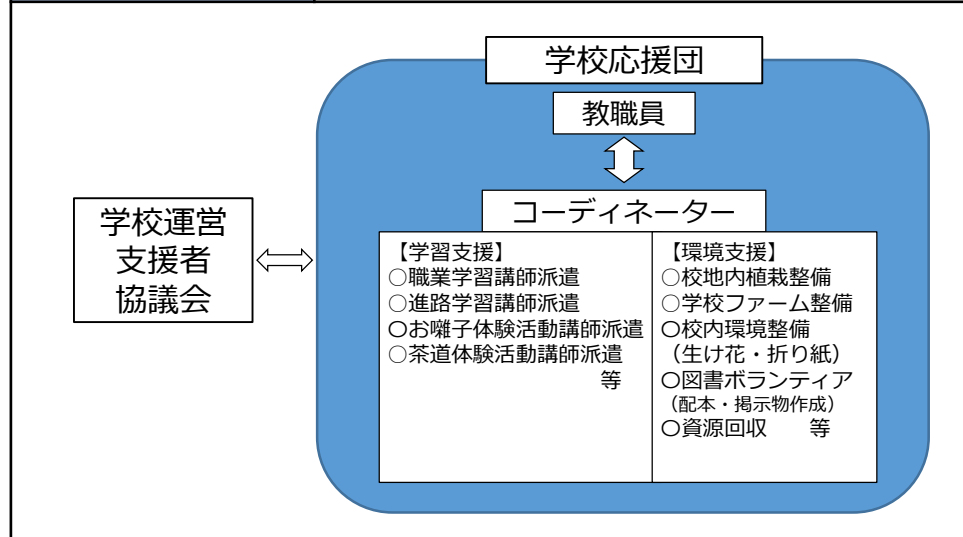
地域の団体や企業等との橋渡しを行い、学校行事のスムーズな運営や教育活動の充実に繋げることができた。

(2) 地域の声

学校に足を運ぶ機会が増えたことで、学校での生徒の活動の様子が良く分かり、地域貢献やボランティア活動に参加する意欲が高まった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 359名 | 学級数 | 12学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (地域の方) | | |



生徒とコミュニケーションをとりながら、アルミ缶を回収しています



色彩豊かな掲示物は、学校生活に潤いを与えてくれます

坂戸市立浅羽野小学校の実践

1 特徴的な活動内容

〈学校応援団の組織の作り直し〉

昨年度までコロナ禍という理由でほとんどの活動が実施されていなかった。また、「次の担い手がいないからやめたくてもやめられない」といった声が年度当初からあり、継続を目的としている団体も見受けられた。そこで、学校応援団を再構築し、夢や希望にあふれる、主体的で創造的な学校応援団の設立を目指して取り組んできた。

また、PTA組織も継続が目的の負担ばかりが多い組織となっている状況があった。そのため、PTAと学校応援団を統合した形を構想し、現在も組織づくりに取り組んでいる。

2 実施に当たっての工夫

(1) 今までの取組との関連

コロナ禍前まで取り組んできた方々にとっては、その活動を大切に思う気持ちがあることから、もっと良くなる活動を提案し、まずは学校が中心となってコーディネートすることで、主体性や創造性が発揮できるようにしてきた。

(2) 全員参加の学校応援団

学習や行事のボランティアは登録制にはせず、メールシステム（マ・メール）を活用して募集し、広く学校応援団の活動を知っていただいた。調整さんというアプリを使用してやり取りが少なく済むように工夫した。

3 成果・効果

コロナ禍を超えて再スタートしたため、まだ自走するだけの準備が整っていないが、もともと取り組んでいた方々が夢や希望を持ち始めている。継続を目的にすることはしないことを周知し、「やりたいこと」「やれるときに」「やれる人が」をモットーにすることで、継続への責任を感じていた方々の方の力が抜け、活動を楽しむように変化してきている。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

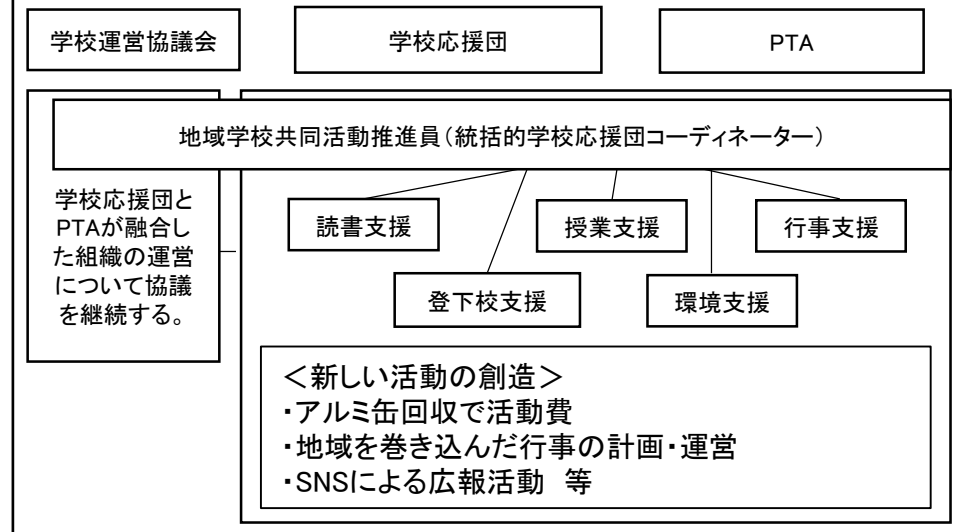
- ・学校応援団の認知度が低いが、読み聞かせは好評である。

(2) 地域の声

- ・同様に認知度は低い。団員の意識の変化がみられる。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-------------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 479名 | 学級数 | 19学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 1名 （地域のボランティア） | | |



〔読み聞かせ〕



〔校外学習の引率〕

鶴ヶ島市立新町小学校の実践

1 特徴的な活動内容

(1) 登校の安全見守り

登校の見守りは、学区内9か所の交差点等で行う。線路付近は踏切があり、かつ、道幅も狭く、自動車・自転車の交通量も多いため、登下校する児童の動線に沿って複数の団員で安全確保に努めている。

(2) 畑栽培の体験支援

3年生の総合的な学習の時間では、近所の農家の方にトラクターで畑を耕運し、ならしていただく。野菜作り名人としての野菜の植え付けを手ほどきいただき、秋に収穫している。地域の方々も子ども達と交流ができ、学校理解にもつながっている。

【これまでの実践例】

教室出入り口の引き戸の修理、廊下のPタイル張り補修、砂場づくり、給食着・収納袋の補修、体育館刺繍の補修、緑化作業、昔の生活用具学習での取り扱い説明、戦争体験の話、保健室ベッド用品の補修洗濯、畑の耕運、校内岩石園の手入れ、等

2 実施に当たっての工夫

(1) 学校応援団活動の広報配布 現在の登録団員数200名強
各団員と全校保護者に、それぞれの活動が終了した時点で、活動報告を応援団だよりとして配布し、応援団活動とその理解を図っている。

(2) 人材の確保

各自治体を通じての応援団人材の掘り起こしと、学校理解の働きかけを実施。

3 成果・効果

地域の方々が、子ども達が学ぶ環境についての整備に携われるということで、地域への愛着や学校理解につながっている。

子ども達自ら、地域の方々へ学校の魅力や地域の方々への感謝を直接伝える場になっている。

4 子ども・地域の声

(1) 子どもの声

- ・「地域の方と関わって地域が安心できる所だと感じた」

(2) 地域の声

- ・「学校と地域とが、温かい心と心でつながり、親近感をもった」

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-------------------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 417名 | 学級数 | 15学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (学校運営協議会委員) | | |

学校運営協議会

コーディネーターが委員として参画
 ○学校応援活動
 ○地域の課題
 ○団員の確保

学校応援団

コーディネーター
 ○自治会・PTA・敬老会・読み聞かせ・農家・趣味サークル・同好会等との連携

応援団だより等の配布・回覧を通じ活動内容の周知



3年生野菜博士になろう



お世話になった方々に収穫祭でお礼をしよう

ふじみ野市立三角小学校の実践

1 地域との協働に向けた取組

「多目的トライルーム」の活用～空き教室を学校と地域をつなぐ拠点として～

(1) ねらい

- ・地域の人財（地域の宝）を積極的に学校に取り込みたい。
- ・学校運営に参画していただくことで、教師の働き方改革にもつなげたい。
- ・学校を中心として地域の活性化につなげていきたい。

というねらいから、空き教室（多目的室）を学校、保護者、地域をつなぐ拠点としていく。

(2) 設置への思い

- ・子供、教職員、地域の方が互いに「顔見知り」をつくり、人のつながりを広げていきたい。（応援団の休憩、会議など多目的に使用してもらい学校に足を運んでいただく。）
- ・防犯上の抑止力を図りたい。（本校は公道が校地を縦断しているため門扉が閉められないことから、閉鎖して防犯するのではなく、むしろ学校を開くことで防犯していく。）
- ・教室に入れない子供たちに対するステップアップの場とする。（不登校傾向の子たちの学びの場としても活用していく。その際、地域の方が温かく見守る。）

2 実施に当たっての工夫

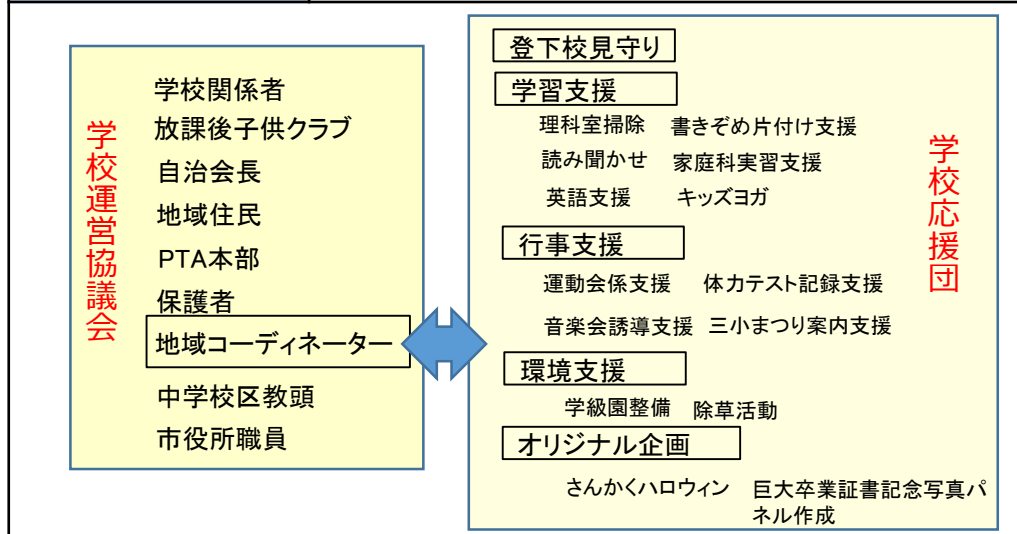
- ・学校だより、応援団新聞、学校運営協議会（ラインワークスの活用）で「多目的トライルーム」の啓発。
- ・未就学児童（保護者同伴）もいることで、家庭用遊具を設置（寄付）のため、在校生には入室のルールを告知。（人がいないときは入らない。遊び場にしない。）

3 成果・効果

- ・学校応援団の方が自由に小会議ができ、意思疎通が図れたことで、学校を支援していこうとするさまざまな案が提案され、委員会や部が自然発生的に生み出される。（理科室掃除、入学準備委員会等）
- ・学習支援の方が帰宅しなくても休憩場所として使用できる。
- ・人が滞在することで不審者の抑止力になる。
- ・教室に足が向かない子でも「多目的トライルーム」で学校に慣れることができ、回数を重ねることに登校の実感を持ち、自信につながっている。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|------|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 529名 | 学級数 | 20学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 1名 | | |



多目的トライルームでの活動



さんかくハロウィン

三芳町立竹間沢小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) **学習支援** 家庭科の裁縫支援や書初めの補助、水泳学習の補助等、年間指導計画にそって実施している。
- (2) **環境整備** プール清掃、花植え、図書の整理等、環境整備を年間を通して行っている。
- (3) **安全確保** 徒歩で行く校外学習について児童の安全面を見守る。

* 教員だけでは人手不足で手薄になってしまうところを、支援していただくことで、児童への指導がスムーズになり、教職員の負担軽減につながっている。

2 実施に当たっての工夫

現在は、学校応援コーディネーターを通して各活動を依頼しているが、今後、公民館を主体とした地域学校協働本部へ移行し、その中の学校応援団として位置付けるために、公民館職員が学校運営協議会に参画している。

3 成果・効果

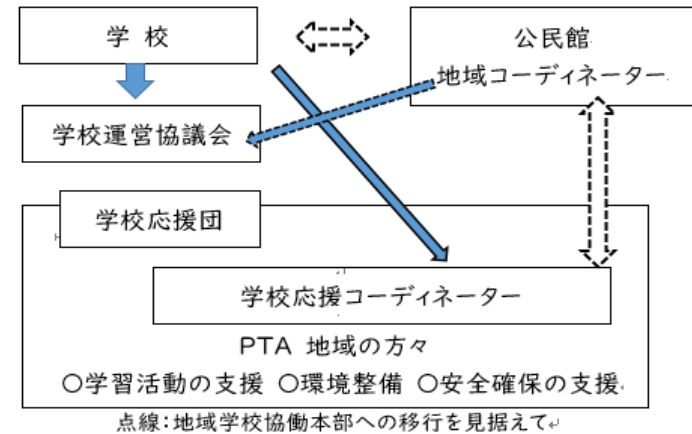
- ・学校と保護者や地域の方々との協力体制が整い、地域の教育力が向上した。
- ・様々な支援により、児童の経験や体験が充実するとともに、教職員の負担軽減につながっている。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
- ・保護者や地域の方々と一緒に活動できることがうれしい。
- (2) 地域の声
- ・ボランティアを通して、地域や保護者同士が顔見知りとなり、横のつながりが広がった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---------------|-----|-----|
| 児童（生徒）数 | 200名 | 学級数 | 7学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (PTA会長) | | |



〔プール清掃〕



〔学習支援〕

毛呂山町立川角中学校の実践

1 特徴的な活動内容

- ・PTA美化作業における地元企業による活動支援
- ・地域人材の活用による「ふるさと学習」「福祉教育」
- ・埼玉医科大学より講師として現役医師を招聘して行う「性に関する指導」
- ・学校ファームの維持・管理に係る支援
- ・PTA資源回収における地域並びに地元企業等からの協力 等

2 実施に当たっての工夫・

- ・秋のPTA美化作業では、公益財団法人コメリ緑育成財団による「コメリ緑資金ボランティア」の助成を受け、地元店舗に所属する従業員の方と共同で活動した。
- ・地域連携の視点では、埼玉医科大学を有する本町ならではの取組が可能である。
- ・「ふるさと学習」では、校区内に「鎌倉街道上道」（国指定史跡）があることや町の歴史民俗資料館との連携により、地元の歴史を感じながら、学習を深めている。

3 成果・効果

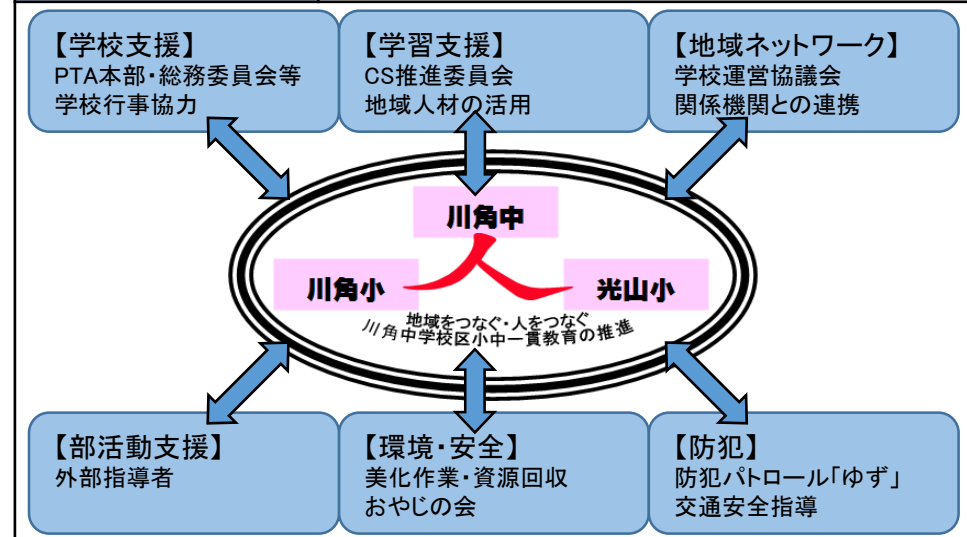
- ・地元企業との連携による活動は、企業による社会貢献活動の意義を理解するとともに、地域の一員としての協力関係の構築に寄与した。
- ・地元の人材や施設を有効活用できることが、学校の教育活動に潤いを与えている。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・学校に関わる多くの人たちへの感謝の気持ちを忘れないようにしたい。
- (2) 地域の声
 - ・様々な形で子どもたちと関わる機会を今後も大切にしたい。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---------------------------|-----|------|
| 生徒数 | 283名 | 学級数 | 11学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (PTA会長・地域学校協働活動推進員) | | |



〔美化作業〕



〔手話講座〕

小川町立大河小学校の実践

1 充実・発展に向けた取組

(1) コーディネートの工夫

「おがわ学」の年間指導計画とテキストをもとに、授業を担当する教員と「おがわ学」を統括するおがわ学部会担当教員が連携して実践に取り組んでいる。その際、外部のゲストティーチャーとの連絡・調整としておがわ学コーディネーターを活用することで円滑な実践を実現している。

2 特徴的な活動内容

(1) 教科横断的な「おがわ学」の実践

小川町では下里地区を中心に有機農業が盛んである。社会「有機農家の仕事」、総合的な学習の時間「有機で栽培する大豆」、国語「有機栽培 大豆の活用」の各授業では、地域の有機農家の方々がゲストティーチャーとして授業を実施した。

(2) 体験的な学びの支援

上記「おがわ学」の教科横断的な授業では、小川町の在来種「青山大豆」の栽培、収穫体験の支援を実施している。こうした体験に際しては、実際に大豆の根の根粒細菌に着目させて菌類と植物の共生関係を学んだり、実が入らなかった要因等を考察させることにより農業が直面する課題などを学ばせることができた。

3 成果と地域の声

(1) 成果

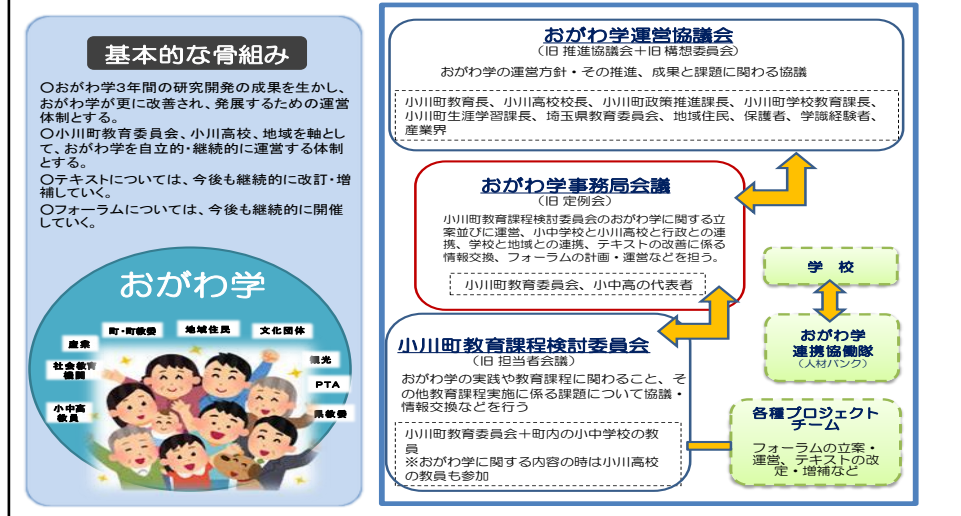
- ・「おがわ学」を活用することで、有機農業を横軸とした教科横断的な授業を実施することができた。
- ・子どもたちにとって、地域の方々がゲストティーチャーとしてお話ししてくれることで、他人事ではなく身近な自分事として考える機会を提供することができた。

(2) 地域の声

- ・地域の多様な魅力を体験的に学んでくれる子どもたちをみると、ゲストティーチャーとして大変うれしいし、町の将来に期待が持てる。
- ・子どもたちに有機農業のすばらしさや可能性を探究させるのもいいが、農業全体を取り巻く厳しさにも目を向けていく必要がある。有機農業をやりたくても、実際には化学肥料や農薬を使わざるを得ない実態がある。子どもたちにこうした現実をしっかりとつかませた上で、有機農業についてその未来を考えさせる必要がある。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|----------------------|-----|-----|
| 児童（生徒）数 | 162名 | 学級数 | 8学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 1名 (おがわ学コーディネーター) | | |



〔有機農業に関する授業〕



〔青山大豆種まき〕

川島町の実践

1 特徴的な活動内容

本町の地域学校協働活動の特徴は、学校応援団とは別組織として、生涯学習課が中心となり、地域の方の協力を得ながら活動を実施していることである。令和元年から取組を開始し、地域学校協働活動推進員やコーディネーター（サポーター）が主体的に運営を行うようになっている。令和5年から開始した学校運営協議会にも参加し、地域の力を学校支援に活かしている。

2 実施に当たっての工夫

- (1)多様な団体とのネットワーク構築
地域学校協働本部を設置し、団体のネットワークを構築している。
- (2)旧小学校を活用した居場所づくり
廃校になった学校にて、毎週土曜日に各種取組を実施し、子供から大人まで、だれでも利用できる居場所を構築している。
- (3)地域住民による多様な取組
ちいきの学習会、講座、イベント、施設の開放を実施している。

3 成果・効果

○実践を通じた人材育成
地域学校協働活動推進員・コーディネーターが、多様な講座やイベントの企画から運営を担い、地域のつながりを活かして講師を依頼したり、スタッフ自らが講師になる等して、主体的に活動している。

4 子供・地域の声

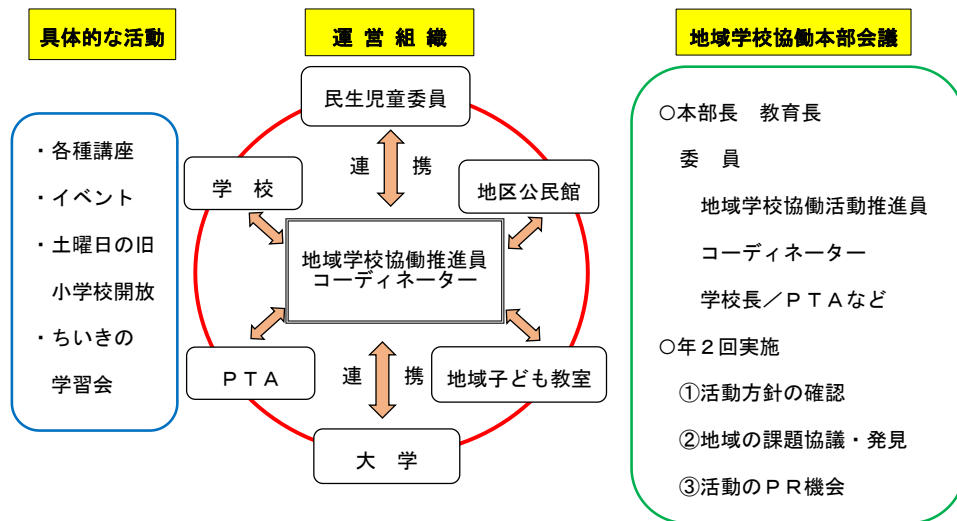
- (1) 子供の声
 - ・ドッジボール大会など、新しい友達と取り組めて楽しい
 - ・毎週の工作体験で、いろいろな物を作れて楽しい
- (2) 地域の声
 - ・企画を楽しむ子供や大人の姿を見てやりがいを感じる。
 - ・休日に家族や友達同士で、気軽に集まれるのが嬉しい。

活動推進体制概念図（対象校：すべての小中学校）

コーディネーター数 推進員2名 コーディネーター27名

概念図 地域学校協働活動（通称：ひろば活動）

【活動の目標】 ①地域全体で子供を育てる仕組みづくり ②地域を「げんき」にするための活動創出



【ドッジボール大会】

複数の学校の子どもや保護者が参加しました。



【ホームソーイング講座】

地域の方が講師となり、多様な講座を実施しました。

深谷市立川本南小学校の実践

1 特徴的な活動内容

地域と連携・協働した米作り・伝統の「田んぼアート」の取組
～ ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る児童の育成 ～

第5学年の総合的な学習の時間において、本校の伝統である「田んぼアート」に取り組んでいる。地域の農家の方と応援団から「米作り指導」の協力を得て、子供たちは籾ふりから収穫までの生産活動に加え、販売活動等を体験している。

2 実施に当たっての工夫

(1) 「見てわかる教育計画」の作成と掲示

「田んぼアート」の取組など、「ふるさと教育」の内容や実践を写真でまとめ、「見てわかる教育計画」と称して校内に掲示している。この掲示により、児童や転入職員、保護者、地域の方々が、本校の「ふるさと教育」の取組について一目で共有でき、連携・協働をスムーズに行うことにつながっている。

(2) 収穫後の交流活動 ～ 収穫感謝祭・多様な他者との交流 ～

「田んぼアート」でお世話になった応援団の方と一緒に餅つき体験をして収穫の喜びを共有したり、以前から交流のある岩手県の田野畑小学校に収穫したお米の一部を贈ったり、「深谷テラス」でもち米販売を行ったりして、米作りの体験を多様な他者との交流活動につなげるなど、活動の充実を図っている。

3 成果・効果

○全国学力学習状況調査質問紙調査から

【質問事項】今、住んでいる地域の行事に参加している

【質問事項】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

| | 川本南小 | 深谷市 | 埼玉県 | 全国 |
|-------|------|------|------|------|
| 令和3年度 | 80.6 | 73.2 | 57.1 | 58.1 |
| 令和4年度 | 57.6 | 65.0 | 50.4 | 52.7 |
| 令和5年度 | 91.0 | 67.8 | 56.8 | 57.8 |

| | 川本南小 | 深谷市 | 埼玉県 | 全国 |
|-------|------|------|------|------|
| 令和3年度 | 63.9 | 60.7 | 51.8 | 52.4 |
| 令和4年度 | 42.4 | 59.5 | 53.7 | 51.3 |
| 令和5年度 | 86.4 | 78.6 | 78.5 | 76.8 |

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

- ・地域の方と一緒に協力して、みんなががんばった伝統の田んぼアートの取組を成功させることができ、本当にうれしかった。
- ・ふるさと川本がもっと発展できるように、様々なことに挑戦していきたい。

(2) 地域の声

- ・今後も地域で子供たちを育み、明るい地域づくりや伝統を守っていきたい。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|----------------|-----|-----|
| 児童数 | 138名 | 学級数 | 9学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (地域の有識者) | | |

【学校】川本南小学校

学校運営協議会

【地域学校協働本部】

学校応援コーディネーター

学校へ具体的支援

【学校応援団】



〔「見てわかる教育計画」〕



〔令和5年度 田んぼアート〕
「いざ! 百五拾年! ふっかちゃん!」

横瀬町立横瀬小学校学校の実践

1 特徴的な活動内容

小学校5年生の総合的な学習の時間で学校応援団の米作り名人が講師となって、米作り体験に取り組んでいる。子供たちが安心安全に体験活動に取り組めるよう下記のような教育活動を担当教師と連携してサポートをしてくれている。

- 米作りの方法をICT機器を活用した説明
- 子供達が体験活動として効率よく実施できるよう苗植えや網掛け、稲刈り等の応援団による支援

2 実施に当たっての工夫

収穫した米を町内の給食調理場と連携し、給食時に町の小・中学校全校児童・生徒でおいしく食べることで食育につなげたり、家庭科の授業での炊飯に活用したりしている。

3 成果・効果

子供達は応援団の方々との交流から広く地域に根ざした学習を教科横断的に学ぶことができた。地域の教育力向上の視点でも双方向に意義のある活動になっている。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

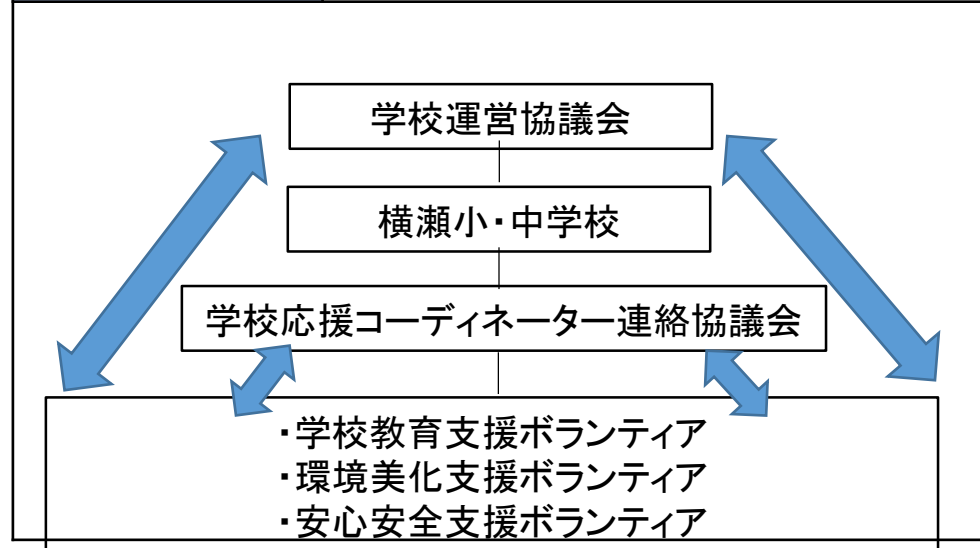
- ・「田植えは初めてだったからできるか心配だったけど、しっかりできてよかったです。」
- ・「名人さんはこの作業を毎回しているのだと思うと、すごいなと思いました。」

(2) 地域の声

- ・「子供達と触れ合うことで、元気をもらえるとともに、地域の活性化にも繋がっていく実感がする。」

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 325名 | 学級数 | 16学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 7名 (公民館職員1名、主任児童員2名、社会福祉協議会1名、教育委員会職員2名、元PTA役員1名) | | |



〔6月の田植え〕



〔9月の稲刈り〕

上里町立長幡小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 環境整備（樹木の剪定、花壇整備、草刈り等）
各学期に数回、学校応援団の方が中心となって、樹木の剪定や花壇整備、草刈り等を行った。
- (2) 梨の栽培体験
梨の栽培（受粉、摘果、収穫、剪定）を学校応援団の梨農家と協力して取り組んだ。体験活動を「郷土を愛する学習」として年間計画に位置付け、生活科や総合的な学習の時間の中で全学年が関わった。
- (3) 野菜栽培体験
学校敷地内にある畑を利用して、低学年を中心に野菜栽培活動を実践した。（1年大根、2年サツマイモ、3年ブロッコリー）

2 実施に当たっての工夫

- (1) 学校運営協議会での協議
学校運営協議会の協議内容に学校応援団活動を加えることで、他の委員にも理解・協力を得た。委員の中に、学校応援団コーディネーターがいるので、学校が示すねらいをもとに、委員が主体的に話し合う機会となった。
- (2) ボランティアの募集
学校応援団コーディネーターが中心となり、ボランティアの募集をした。また、幅広く活動に参加してもらうために、学校を通じてボランティアの募集案内を周知した。

3 成果・効果

- ・地域の方との交流や、異学年間の関わりを通して、充実した体験活動になった。栽培した野菜等を収穫、調理することで食育の推進を図ることができた。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・いろいろな作物の栽培を体験することで、作物を育てる大変さを知ることができた。これからも感謝の気持ちを込めて給食を食べたいと思った。
- (2) 地域の声
 - ・子供たちと関わる機会を得て、やりがいを感じている。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|-----------------|-----|-----|
| 児童（生徒）数 | 177名 | 学級数 | 8学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 1名 （学校運営協議会） | | |

学校運営協議会

連携

学校応援団 34名

コーディネーターは運営委員を兼ね、会に参加する。協議内容に応援団活動についても加え、他の委員にも理解・協力を得る。

- ・人材確保について
- ・学校支援活動について
- ・学校・児童の様子について 等

活動内容

- 安全 ○読み聞かせ
 - 図書運搬 ○学習支援
 - 昔遊び ○学校農園
 - 環境整備・緑化
- それぞれの活動以外についてもできる限り協力体制をとる。

* 他団体との連携
（伝統芸能保存会、お年寄りの会 町図書館 等）



〔梨の収穫〕



〔花壇整備〕

行田市立見沼中学校の実践

1 特徴的な活動内容

- ・学校施設開放委員会による学校施設清掃ボランティア
- ・体育祭に向けての全校除草ボランティア
- ・定期的な除草ボランティア
- ・荒木地区体育祭ボランティア
- ・荒木地区文化祭体験

2 実施に当たっての工夫

「人が環境を作り、環境は人を作る」という言葉を信条に学校運営協議会、学校応援団、PTA保護者、地域の方々に学校だより・ホームページをはじめ、各会議、保護者会などで常に発信し続けた。

3 成果・効果

学校の環境整備に協力していただいた。特に、除草作業では、重機を貸していただき、学校ファームの整備、校庭の樹木剪定などにも協力していただいた。本学区内のコミュニティは非常に結束力が高く、清掃ボランティアや全校除草ボランティアでは80名を超える方々の参加があり、効率的かつ大規模な活動を行うことができた。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

- ・自分の親だけでなく、たくさんの地域の方々が除草作業に参加してくださり、校庭がとてもきれいになった。体育祭ではその恩返しをするために全力で楽しく取り組みたい。

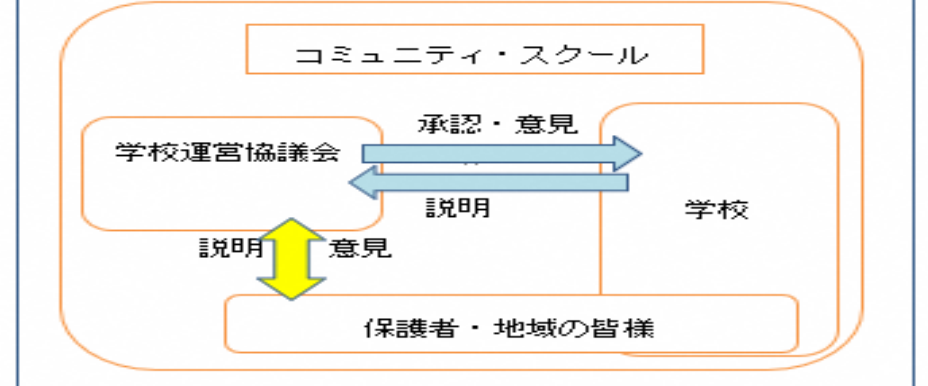
(2) 地域の声

- ・学校施設等を借りている立場、保護者としての立場、地域の住民としての立場として、今後も見沼中学校に何かしらのかたちで協力していきたいと思えます。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---|-----|-----|
| 児童（生徒）数 | 83名 | 学級数 | 5学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 65名 (荒木地区体育協会17名、荒木地区育成会37名、須加地区体育協会4名、須加地区育成会3名、除草ボランティア4名) | | |

【組織の概要】



〔学校施設清掃〕



〔荒木地区体育祭〕

久喜市立久喜小学校の実践

1 特徴的な活動内容

学校・保護者・地域が一体となり、「チーム久喜小」として、「地域と共にある学校」を目指し、「教育活動の充実のために自分ができること」について活動している。今回は学校施設の修繕と総合的な学習の時間の充実について紹介する。

(1) 雨プロ

4年生の総合的な学習の時間に行っているプロジェクト。雨水を活用して豊かな生活を目指し、専門的なゲストティチャーによる助言を受けながら、雨水を収集し、ビオトープに活用する方策を実行中である。

(2) ビオトープ再生

久喜小の校庭にあるビオトープを「久喜小児童が持続可能に管理できるビオトープ」を目指し、児童や地域の方、PTA、教職員一丸となって再生を実施している。

2 実施に当たっての工夫

○学校運営協議会との連携

学校教育目標の実現に向けて、教職員だけでなく、学校運営協議会でも議題に取り上げ、子どもたちの探究活動や教科・領域の活動において、行事や活動を精選し、実施している。月1回学校運営協議会を開き、その都度、久喜小に必要な項目について検討し合うことにより、より良い学校経営と教育活動の実施に反映させている。

3 成果・効果

○学校評価（保護者アンケートの結果より）

- ・久喜小は、学校だより、懇談会等で教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている。
- 達成率 94.7%
- ・久喜小は、PTAや地域の方と連携し、教育活動を行っている。
- 達成率 98%

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

- ・学校の大切なビオトープ作りに参加できて嬉しい。

(2) 地域の声

- ・子どもたちがどのようにビオトープを学習に役立てていくか今から楽しみ。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 493名 | 学級数 | 20学級 |
| コーディネーター数 （担い手） | 10名 (学校運営協議会委員8名、PTA会長1名、地域学校協働推進委員1名) | | |

チーム久喜小

学校運営協議会

校長
教頭
主幹(地域連携)

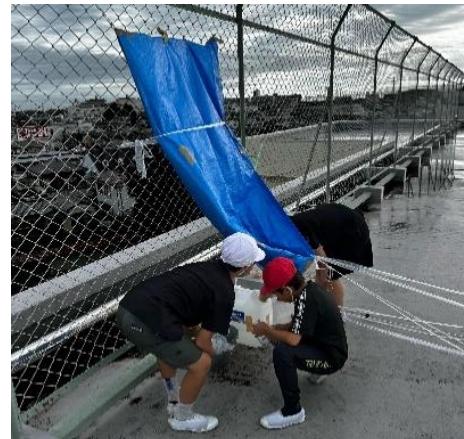
学校運営協議会委員
区長・民生・学識・教職
地域・P会長・保護者

教育活動の充実に係る運営

PTA本部・コミ協・各自治体・民生・ゆうゆう・商店街・商工会・
スクールガードリーダー・地域住民・ボランティア団体

《主な活動》

- ・行事 ・あいさつ運動 ・生徒指導推進委員会 ・親子除草
- ・授業ボランティア ・学習支援ボランティア
- ・環境整備 ・安全見守り



〔雨プロ〕



〔ビオトープ再生〕

三郷市立新和小学校の実践

1 特徴的な活動内容

- (1) 読み聞かせボランティア「おひさま」による読み聞かせ
 - ・金曜日のブックタイムに、月1～2回、43学級全教室で絵本等の読み聞かせをする。
 - ・7月と12月のロング昼休みに、体育館で「お話し会」を開催する。
 - ・図書室掲示板の飾りつけをする。
- (2) 図書修繕ボランティア「あおぞら」による学校図書館の整備
 - ・学校図書館の本の修繕を行う。
 - ・授業参観や学校公開の際に、寄贈本の募集を呼びかける。
 - ・図書館の整理整頓と、児童への本の貸し出しの補助をする。

2 実施に当たっての工夫

- (1) 読み聞かせボランティア「おひさま」
 - ・年度当初や年度末を中心に、ボランティアメンバーが主体となり「おひさま通信」等でメンバーの募集をかける。また、LINEの公式アカウントを独自に設け、随時メンバー募集や見学の受付をおこなっている。
- (2) 図書修繕ボランティア「あおぞら」
 - ・できる人がいつでも無理なく楽しく活動できるように、活動時間等の制限を設けない。

3 成果・効果

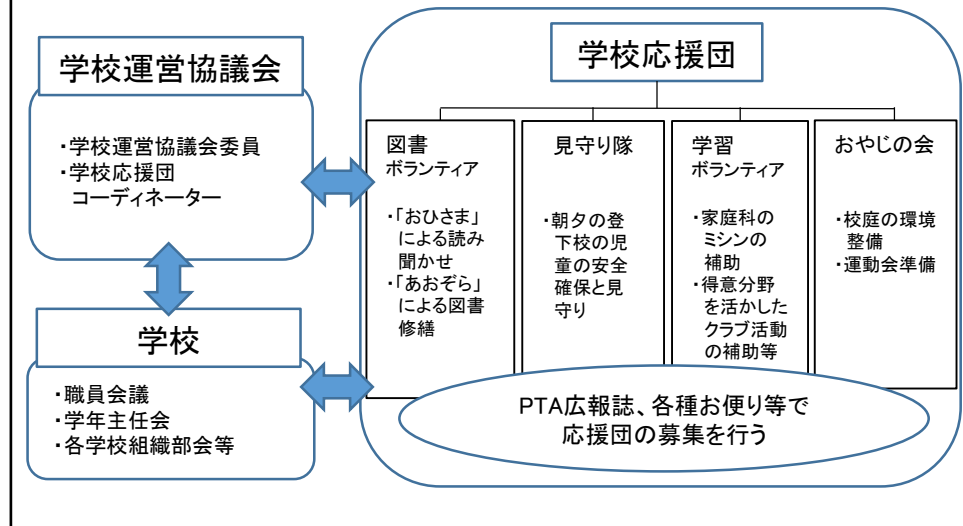
- ・読書好きな児童が増加し、「埼玉県学力・学習状況調査」の質問紙において、1か月に3冊以上本を読んだ児童の割合が6年77%（県平均49%）、5年79%（県平均56%）、4年86%（県平均55%）と県平均を上回る。

4 子供・地域の声

- (1) 子供の声
 - ・季節に合ったいろいろな絵本を読み聞かせしてくれるので、金曜日の「おひさま」の時間が楽しみです。
 - ・お話し会では歌や楽器の演奏もあるのでうれしいです。
- (2) 地域の声
 - ・子供たちが笑顔で読み聞かせを聞く姿にやりがいを感じています。
 - ・「ありがとう」など、感謝の言葉に励まされます。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--|-----|------|
| 児童（生徒）数 | 1308名 | 学級数 | 43学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (学校運営協議会委員・学校応援団コーディネーター1名 PTA会長1名) | | |



〔「おひさま」によるお話し会〕



〔「あおぞら」による図書修繕〕

蓮田市立黒浜北小学校の実践

1 特徴的な活動内容

子どもたちへの学習支援活動や、太鼓・ひょうたん活用学習などの地域人材・環境を活かした体験活動をはじめ、運動会等の行事、PTA主催の親子イベント（令和5年度は「逃走中」）、親子除草活動等への参加をとおして、学校・保護者・地域との連携を深めている。

2 実施に当たっての工夫

(1) 体験活動への支援

やご教室、クラブ活動指導（太鼓・囲碁将棋）、お話会、ひょうたん活用学習、ものづくり体験等をはじめとする様々な体験活動の支援をいただいている。また、職員玄関の生け花を定期的に生け代えてくださる方もいる。ボランティアの方からの「学校の負担を増やさないように」という配慮もあり、事前の打ち合わせや準備等は実施していないため、教職員の負担軽減にもつながっている。

(2) 安全・安心な環境づくりへの支援

学校から遠い地区から通う児童のために、1年生の下校見守りボランティアの方も毎日活動してくださっている。通学路の危険箇所や児童の様子で気が付いたこと等も報告してくださるので、地域や防犯上の情報収集にも役立っている。

3 成果・地域の声

(1) 成果

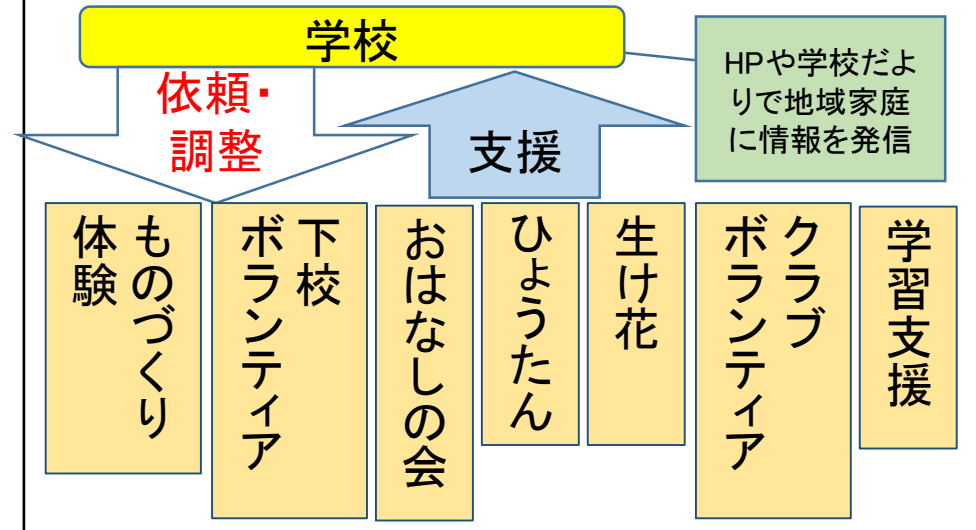
- ・子供たちは貴重な経験を積むことができ、豊かな心が育まれている。
- ・地域や保護者の目線から学校に様々な情報を提供してくださっており学校・保護者・地域の連携強化につながっている。
- ・潤いのある学校環境や、児童へのよりよい教育活動が確保され、教職員の負担軽減につながっている。

(2) 子ども・地域の声

- ・大きなやごを間近で見られたのでよかった。
- ・割り箸でっぼうや紙グライダーなど、また自分でも作りたい。
- ・子どもたちも、来年もイベントが楽しみだと言っている。
- ・子どもたちの学びや、先生方の負担軽減につながっていてよかった。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|---------------------|-----|------|
| 児童数 | 228名 | 学級数 | 10学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 7名 (各ボランティア団体代表) | | |



〔太鼓クラブ〕



〔やご教室〕

宮代町立須賀中学校の実践

1 特徴的な活動内容

本校には、在校生及び卒業生の保護者から構成される学校応援団「パパネット」という組織がある。小学校から継続して児童・生徒のために積極的に活動をしていて、これまでに正門に掲げてあるオブジェの修繕、校庭の除草作業等を依頼してきた。保護者の横のつながりで人材を確保していて、現在は15名程で活動している。

部活動支援に関しては保護者の協力を、図書ボランティアに関しては宮代町からの協力を得ている。

2 実施に当たっての工夫

学校応援団のほとんどが在校生及び卒業生の保護者である。そのため日常的な交流を比較的容易に行うことができている。特にパパネットの代表者は個人事業者であるので、学校側が直接店舗に赴き、支援依頼を行うことも多い。また、PTA会長が学校運営協議会のメンバーであり部活動支援も行っているため、来校時に今後の活動や課題について話し合うようにしている。

3 成果・効果

パパネットによる修繕及び除草作業、保護者による部活動指導、図書ボランティアによる図書室及び蔵書の整備・読み聞かせ・本の紹介等により、職員の日常的な負担が大幅に軽減されている。また教職員以外の方が生徒に関わることで、生徒の活動の幅が広がり、生徒の人間的な成長にも良い影響を与えている。

4 子供・地域の声

(1) 子供の声

- ・校庭の除草を引き受けてくれるので、運動会前の活動や準備の時間が十分に取れ、運動会に集中できる。

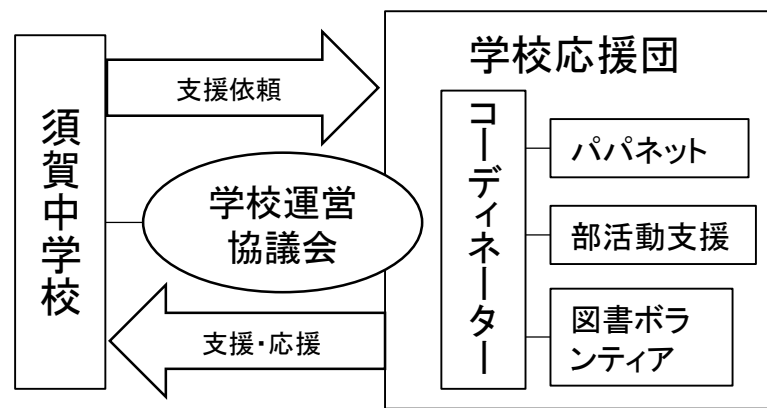
(2) 地域の声

- ・学校のために活動してくれていて、保護者の負担軽減になっている。

学校基本情報

| | | | |
|--------------------|--------------------------|-----|-----|
| 児童（生徒）数 | 159名 | 学級数 | 8学級 |
| コーディネーター数 (担い手) | 2名 (PTA会長 学校運営協議会委員長) | | |

コミュニティ・スクール



〔オブジェ修繕：パパネット〕



〔除草作業：パパネット〕